



しずおか愛護

No.43 (令和3年12月20日発行)

静岡県知的障害者福祉協会・広報 発行



=巻頭言=

新型コロナウイルス感染症がようやくひと段落し日常生活にも落ち着きを取り戻せるかと思っていた矢先、これまでのラムダ・ガンマ・ベータ・アルファ・デルタ株に続き、新たな「オミクロン株」(変異種)拡大のニュースが入ってきました。これからはこのオミクロン株の情報があちらこちらで流れ警戒して行く事となります。目に見えないウイルス感染は本当に恐怖ですが、2年前とは違い先進医療のお陰で解明も早く、その不安も時間と共に軽減して行くものだと思います。しかし感染対策については一度の安堵感から緩んだ手綱を再度締め直す必要があります。引き続き感染症対策の徹底を心掛け「新型コロナ退散!」を目標にもうひと踏ん張り頑張ってください。シェイクスピアの「マクベス」の台詞を引用させて頂くならば「明けぬ夜はない」のです。

少し話題を変えて、最近特に考えさせられたことに触れさせていただきます。先日NHKの番組で「選挙に行かない。だって政治に興味ないし、わかんないし」という若い世代の人達のインタビュー番組を観ました。ため息というか、あきれてしまいました。これが現実なのです。今の若者が政治に関わらなくても普通に生活は出来、社会に対して自由に文句は言えるというのが当たり前の社会になっています。が、その社会は政治によって大きく変わるという事には分かっているけど興味がないので関わりたくない「事なかれ主義」で、自分に都合の良い生き方をする人が多くなってきた世の中になっています(勿論そうではなく、頑張っている方も多くいます)。これは若い世代の問題ではなく、そこに向き合ってきた私たちが(中高年)の世代にも、教えてこなかったり、伝えてこなかった大きな原因や責任があるのではないのでしょうか。そう考えると政治の事に限らず福祉や全ての業種にも同じことが言える、または置き換えられるのではないのでしょうか。

自分が障害者支援施設(入所)に就職した時は、福祉の事も障害の事も全く知らず、ただ職に就きたかっただけで就職しました。右も左もわからず、ただ先輩達の背中を見ながら仕事をしていました。当時は障害を持つ利用者がどう接すれば落ち着いてくれるのか、いつも疑問に思いながらも、ただ我武者羅に身体を動かして答え、模索しながら仕事をする毎日でした。そんなある日のこと、暴れてパニックを起こした利用者に対応していた先輩の女性職員が粗暴行為にあいそうな光景が目に入り、直ぐに駆け付け「大丈夫ですか」と声を掛けると「大丈夫です。向こうに行ってみてください。これは利用者さんと私の関係作りの大事な場面なの。邪魔しないで!」という思いも寄らない言葉をもらいました。自分の福祉の仕事に対する意識が大きく変わった瞬間でした。この事から30年以上福祉の世界で利用者支援に携わらせてもらい、色々な経験をさせて戴きました。その経験を少しでも福祉に恩返しする意味で、福祉の職に就いた新人職員の方達に、自分がいつもお話しをしている事を述べさせていただきます。

利用者さんと接する時には「背伸びをしないで下さい。」そして、メリハリある強弱をつけた支援(ダメなものなぜダメかという理由を伝え、良い事は沢山褒める。)を心掛けて欲しいと思います。また支援する側(仕事をする)にも、人生には、目に見えない未来があります。その未来を楽しく生きるのも自分の考えや行動次第です。折角福祉職という professional な職業に就いたのです。これからは、障害の特性を理解し、出来るだけ利用者さんの立場になり、考えや思い・行動を察し、寄り添いながら利用



静岡県知的障害者福祉協会
副会長 滝口 裕二
(掛川工房つづじ)

者さんと一緒に楽しく笑う、そんな場面を沢山作って下さい。そこから、利用者さんとの間に「信頼」が生まれ、支援する側には「自信」が生まれます。これが人としての厚みにもなり、支援力になります。

これはいつも自分が心掛けて来た事で、福祉職の魅力でもあるのです。とお話しさせて頂いている事をご紹介します、巻頭言の締めとします。

第 59 回東海地区知的障害関係施設長等研究協議会

事務局 青野剛明

新型コロナウイルス感染症の第 5 波の襲来により県内にも緊急事態宣言が発出されていた 9 月 29 日(水)に、第 59 回東海地区知的障害関係施設長等研究協議会をオンラインにより開催しました。

協議会の内容は正副会長会議で検討しました。一つは、各施設・事業所が苦労している人材確保について、それも今いる職員の離職をいかにして防ぐか、二つ目は、重度障害者の住まいの場の在り方を考えてみたい、日中サービス支援型グループホームで参考になる事例を聞いてみたいとの方向でまとめ、理事会を経て内容が決定しました。また、申込手続き、参加費徴収、Zoom オペレーションの業務は名鉄観光サービス(株)に委託しました。

当日は、天良副会長に司会を務めていただきました。東海地区会の近藤会長と開催県会長である池谷会長に開会の挨拶をいただき、午前中は、福祉分野での人材定着に先進的に取り組んでいる「社会福祉法人合掌苑(東京都町田市)」の森理事長に講演していただきました。森理事長からは、“心理的安全性”が高いチームは離職率が低く収益性が高い、心理的安全性の高い組織とはなどについて、また、サービス残業の撲滅の必要性などについて話がありました。

お昼休憩の後、「(公財)日本知的障害者福祉協会」の末吉事務局長から、障害者総合支援法の改正に向けた検討状況などの中央情勢報告がありました。次に、「社会福祉法人北海道社会福祉事業団、だて地域生活支援センター」の菊池所長に、日中サービス支援型グループホームの紹介、取組み、活動内容などについて詳細に報告していただきました。最後は、次回開催県である三重県の近藤会長にご挨拶いただき、閉会となりました。

今回の研究協議会の参加者(参加端末数)は 134 人と、前回、前々回に静岡で開催した時に比べると 100 人以上の減少となったことは少し残念な結果でした。一日でも早く新型コロナが終息し、これまでどおり東海 4 県の管理者・施設長等の皆さんが顔を合わせ勉強しあうことができる日を心待ちにしています。



来年こそお会いしたいですね!

第13回児童虐待防止 静岡の集い

児童発達担当理事
早川恵子(いこいの家)

今年度の児童虐待防止静岡の集いは、新型コロナウイルス感染症の影響により、従来の集合型での講演会、街頭パレード、オレンジリボンたすきリレーは行わず、オンラインでの講演会、ポスター、ちらし、啓発品による啓発活動、県内各地のランドマーク的施設を児童虐待防止のシンボルカラーであるオレンジ色でライトアップする啓発活動を行いました。

オンライン講演会は、11月14日(日)に、認定NPO法人児童虐待防止全国ネットワーク理事の高祖常子氏を講師に迎え「子ども虐待防止のために～体罰等によらない子育てを広げよう～」というテーマでお話を伺いました。児童虐待件数は全国で20万件を超え、虐待死は毎年70～80人と報告されています。しつけという親の暴力がこどもの命を奪っているのです。子育てにおいて、体罰を無くすこと。日本では2020年に世界で59か国目の「体罰全面禁止」が承認されました。児童虐待防止はまず予防、どの子どもも安全で健やかに育つよう、そのためには子育て世代の親が孤独にならないように、地域でサポートできる体制作りが大切だと感じています。

また、昨年に行われたオレンジライトアップは、今年は、楽寿園(三島市)、三島スカイウォーク、韮山反射炉、沼津港大型展望水門びゅうお、大観覧車 FujiSkyView、富士山世界遺産センター、静岡市役所本館、駿府城公園巽櫓、浜松城の9か所で行われ、それぞれの施設がオレンジ色のライトで浮かび上がり、児童虐待防止を訴えました。



富士山世界遺産センター



静岡市役所本館



大観覧車 FujiSkyView

ふれあい交歓会(就労自立者激励会)

地域支援担当理事
高木徳雄 (クララ寮)

令和3年度	ふれあい交歓会 (就労自立者激励会)		
	代替企画 「Zoomで語ろう」		
日時	令和3年11月21日(日) 10:00~11:30		
場所	Zoom ミーティングにより各事業所より参加		
参加者数	14名(利用者 12名 補佐職員 2名) ※2事業所 ※協会役員 4名、事務局 1名、部会長 1名 計 20名		
日程	1 開会		
	2 主催者挨拶	静岡県知的障害者福祉協会	会長 池谷 修
	3 自己紹介	参加者全員	
	4 近況報告	参加利用者	
	※随時質疑応答	参加者全員	
	5 職員より	フォロー職員	
	6 励ましの言葉	静岡県知的障害者福祉協会	会長 池谷 修 副会長 天良 昭彦 副会長 家込 久志 副会長 滝口 裕二 (*敬称略)
	7 閉会		

今年度のふれあい交歓会は昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染防止のため実施することはできませんでした。しかし何らかの形で交歓ができないか検討し、昨年はコロナ禍による様々な自粛を求められる中での皆さんの声を近況報告集として作成しました。そして今年は皆さんの声を私たちにも馴染みになってきました Zoom にのせて語り合う近況報告会として実施しました。

協会役員の方にもご参加いただき、また、事業所職員のフォローをいただきながら、皆さんにとっての Zoom デビューが始まりました。興味と緊張を孕みながらではありましたが、現在の生活、お仕事の状況、今後の目標や楽しみにしていることなどを話していただき、参加者同士でのやり取りに発展する場面もありました。思いのほか笑いが巻き起こる盛り上がりもあり、画面越しで久しぶりに顔を合わせたことへの喜びが見てとれたことをうれしく思いました。

皆さんの報告からは、コロナ禍の影響を受けつつも、決して下を向かず、前を向いておられることを強く感じました。私たちが激励するはずの企画でしたが、逆に激励された時間になってしまいました。そして、「今度はきっとみんなで会えるといいな。」と、期待を胸に手を振って Zoom を退出しました。

感染症の状況等が大分落ち着いてきましたが、感染対策はこれからも求められることと思います。感染リスクとなる飲食の場や密な環境などを上手に回避しつつ、カラオケや名刺交換などを通しての交流の場を再び設けられるよう、次回への計画を思案してまいりたいと思います。



第34回静岡オレンジマラソン大会

スポーツ担当理事
大畑彰弘（垂穂寮）

空を見上げると抜けるような青空、すばらしい天候に恵まれましたという感謝の言葉の下で、第34回静岡オレンジマラソン大会は、11月26日(金)、27日(土)の2日間にわたって、静岡県草薙総合運動場陸上競技場を会場に行われました。

「楽しみにしている方がいます。どのような方法であれば実施できるでしょうか。」という声から、実行委員会では、参加者の皆様が他事業所の関係者と確実に接触がない感染対策を行うこととして開催要項やプログラム等を作成しました。そのため、ベテラン実行委員も戸惑うほどに例年との流れに違いがありましたが、当日は統括責任者の適切な指示のもとで、実行委員や学生ボランティア等はそつなく役割をこなし、スムーズな運営を行うことができたと思っています。

さて、大会ですが、両日合わせて11事業所の計51名が記録会形式で希望の種目（1500m・1000m・500m・50m走）に参加し、オンライン形式により5事業所の34名が参加していただきました。

ご参加いただいた皆様の帰り際の充実した表情を見て、コロナ禍であっても参加者含め多くの方の協力で、今回、この大会が実施できたことを喜ばずにはいられませんでした。本当にありがとうございました。そして、お疲れ様でした。



次は
パリを目指して!



第30回愛護ギャラリー展について

文化担当理事

飯塚友紀（コンパス北斗）



今年度は、新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いている時期（12月9日～12月12日）にグランシップで開催することが出来ました。改めまして、たくさんのご支援ご協力を頂き、誠にありがとうございました。

私は初めて実行委員長として携わせて頂き、たくさんの事を学びました。また、実行委員の方々の熱意に大変感銘を受けました。この熱意の源は、やはりご利用者なのです。

制作風景を回想したり、作品の素晴らしさが、作品をより良くお客様に見て頂くという目標をあえて具現化しなくても、全員が共通の思いで会場を創り上げる事が出来ました。

また今年は特にコロナ退散、東京五輪、SDGsをテーマとした作品が多かったように思います。作品の一つ一つに作者と支援者の工夫がいっぱい詰まっており、早速来年の作品のテーマをお考えになられている方も多々いらっしゃると思います。

コロナ禍や遠方が理由で会場に来られない方々のために2月初旬にアーカイブ配信を予定していますので楽しみにして頂ければと思います。

ご利用者の表現の場として、作品作りの活力になる行事として、この愛護ギャラリー展がいつまでも続くように、より多くの方にこの感動を伝えられるようにと願いながら、第30回愛護ギャラリー展の報告とさせていただきます。



入賞作品の掲載は次号で行います。

アーカイブ配信もお楽しみに！



権利擁護啓発講座

権利擁護担当理事
原邦人（ミルキーウェイ）

新任職員を対象とした「権利擁護啓発講座」を11月5日にZoomを利用して開催し、62名の方の参加がありました。この講座は、福祉施設における虐待や人権侵害について改めて考える機会となるように企画しました。はじめに、「障害者への虐待について」と題し、本協会の監事でもある「ふるい後見事務所古井慶治氏」から新任職員向けのわかりやすい内容のお話をいただきました。続いて、虐待防止に向けた取り組みについて、「みはらしの里施設長 高井昌弘氏」、「あいあい学園主幹 佐藤貴博氏」より、施設における虐待防止についての取組事例を報告していただきました。最後に、講義・事例報告を聞いた後、数名に分かれグループワークを行いました。グループワークでは参加者から、施設での取り組みや支援者としての悩み等が話題となっていました。講座終了後のアンケートでは、「改めて虐待について考える機会となった」、「自分も虐待につながる行為をしていたのではないか」等が寄せられ、有意義な講座となったようです。



この講座も今回だけでなく、継続して行くことが大切だと考えます。また、新任職員だけでなく、中堅・管理者といった方たちに向けた講座も行えるとよいなと思いました。



《 編集後記 》

私どもの施設では11月中旬に面会を再開しました。涙の対面、安どの笑顔、中にはご家族の顔を見るなり「コーヒーは…？」とマイペースの応対…。久しぶりに和やかな感動をいただきました。

話は変わりますが、私事…。妻の実家が瀬戸内海の島にあります。年末に帰省をすると義父の育てた白菜が立派な真鯛に変わる物々交換。それを肴に家族で酒を酌み交わす新年が楽しみでした。

まだまだ日常は戻りませんが、いつか「タイは…？」と言える日が…。

しずおか愛護 No.43 をお届けします。「来年こそは！」を期待に、皆さん良いお年をお迎え下さい。

(広報担当 戸津策太郎)